

採用担当者座談会 読売キャリアデザインセミナー

読売新聞東京本社はこのほど、就活ON!ライブ「読売キャリアデザインセミナー」本気で考える自分の未来」(運営協力・ブンナビ)を都内で開催した。「就活にはこう臨め」と題して行われた有名企業の人事・採用担当者座談会を紹介する。(司会は社会保障部・大津和夫記者)

人事の 眼 スペシャル

——どんな人材を求めているか。

細川 世の中に情報が氾濫する中、どの情報が会社のビジネスの成功に結びつくかを見極め、自分で考えて自分で行動する「自律自転」型の人を求めている。

勝山 積極性や好奇心を持って取り組める人。一人で解決できる仕事はまずないから、協調性やコミュニケーション能力が必要。

松村 航空業界を巡る環境はめまぐるしく変わっている。ものを変えていくことに挑戦する勇気と実行力を持った人材が欲しい。

自ら挑戦する人が欲しい



日本生命保険

人事部人材開発室課長補佐
細川大輔さん 32

「保険を通じた保障を提供しており契約者は約1000万人。総資産は約48兆円で、株式や社債、不動産の運用プレーヤーの役割も果たしています」

真保 新しい価値を創造できる人。世界への事業展開に向け、開拓者精神を持った人、主体的に最後までやり抜ける人を求めたい。

論理的に

——面接とエントリーシート(ES)では何を見ているのか。

細川 ESは熱意を測るツールであり、新聞で言う「見出し」。面接で掘り下げてもらうためのエサとすることもできる。魅力的なエサに採用担当者は飛びつくから、それをきちんと説明できればいい。

勝山 ESは、文字数が限られているので、どれくらい頭が整理できているか見ている。論理的なESは読みやすい。面接では、話の内容だけでなく、会場に入ってからドアを閉めて出て行

くまで、しぐさなど一挙手一投足すべてを見ている。

松村 ESでは昨年からの最も輝いていた時のスナップ写真を張ってもらっている。今まで何をやり、何をしたいのかを見極めたい。

真保 会社側と学生の意識のギャップを埋めていくための作業が就活。そのツールがESであり、面接だ。ESでは、短い文章でどれだけ伝えられるかという論理的思考力を見る。面接では、色々な経験の中でどう考え、どう実際に行動して

大学3年生の就活カレンダー

| 2月 | 3月 | 4月 | 5月 |
|----------------|------------------|----|----|
| 会社説明会/OB・OG訪問 | 一部企業では書類選考や適性検査も | | |
| エントリーシート・履歴書提出 | 筆記試験・面接 | | |

※あくまでも目安です。必ずしもこの日程に進まないケースもあります

まず、私がコラムで書いていることは、膨大なESを読む時の人間の感覚です。びっしり文字で埋まったESを、仮に1枚1分の超高速で休みなく読み続けたとしても、2000枚

エントリーシート

先月からエントリーシート(ES)について書いていますが、「常識と違う」という多くの反論をいただきました。私の非才でニュアンスを伝えきれず、誤解を呼んだケースもあったようです。そのことはお詫びしつつ、改めて意見を書かせていただきます。

エピソードで伝える「私」

× だめな自己PRは...

冒頭に抽象的な結論

本人をイメージしにくいとなえ

情報量が少なく見える箇条書き

効果が疑問な見出し

粘り強さが売り物です

◆私はとても粘り強い男です。いわば「粘着力」です。その威力は山芋にも納豆にも、その辺で売っている強力接着剤にも負けません。

◆この粘り強さを私が身につけることができたのは、小中高大と続けた野球のおかげです。厳しい練習に耐える根性を培うことができました。

◆この持ち前の「粘着力」を使って、貴社の営業職で必ずがんばります!!!

白黒コピーで汚くなるマーカー

原田流の自己PRは...

エピソードでアピールしよう



私は15年間、野球を続けました。高校は甲子園の常連で、才能で劣る分を練習量でカバーし、腕を疲労骨折するほどでした。レギュラーにはなれませんでした。せめてチームの盛り上げ役にとベンチから声をからして応援し、応援団長の称号をもらいました。大学で作った野球サークルではもっぱら会計や渉外など裏方業務を任されています。(ここまででほぼ同じ分量。まだ書くことができます)

の山の読破には30時間以上もかかる計算です。目はかすみ、意識はもうろう

原田デスクの必勝講座

としながらも、どの1枚にも1人の人生の重みをずっしり感じながら続ける作業です。自分の不見識で素晴らしい個性の持ち主を不合格にできない強烈なプレッシャーの中で、こんな作業を延々と続ける人間が陥る感覚とは、どのようなものでしょう。

さつと開いた自己PR欄の中で、書いた本人の「具体的で有益な情報」を目が瞬時に探し出し、その人物がどのような人であるかをリアルに想像し、その上で、企業にとって有用な人物かどうかを判定する。こうした一連の作業を、驚くほど短い時間の中でやらなければなりません。

「協調性があります」などと抽象的に書かれた文言から、あれこれ人物を想像することはとてもできません。「体育会ラグビー部で活躍」「ゼミの研究に没頭した」。わずかに書かれた情報から、その人物像を必死で思い浮かべます。

おそらく鬼気迫る、あるいは憔悴しきった表情で、「次の学生は?」「その次は?」としぶれる頭をリセットし、ひたすら読み続ける。文章の味わいや、マニュアルの指示する型や、たとえ話に感心している余裕すらありません。

自己PRの例文を見てください。そのような状況にあって、あなたはどちらの文章から書いた本人を想像できるでしょう。誰にも書ける「がんばります」といった陳腐な宣言より、その人の持つ豊かな人間性に少しでも触れたいのです。

(原田康久・読売新聞人事部長・採用担当デスク)